

第 46 回
神奈川県
美術展

The 46th Kanagawa Art Exhibition 2010

第46回 神奈川県 美術展

The 46th Kanagawa Art Exhibition 2010

1 期展 [工芸・書・写真] 平成 22 年 9 月 8 日(水)-9 月 19 日(日)

2 期展 [平面立体] 平成 22 年 9 月 22 日(水)-10 月 3 日(日)

会 場 神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展 平成 22 年 10 月 6 日(水)-10 月 17 日(日)

休館日：10 月 12 日(火), 13 日(水)

会 場 厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県

共 催
(財)厚木市文化振興財団

協 賛
(財)神奈川県美術奨学会／(財)はまぎん産業文化振興財団／
(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会／(株)ニコン

後 援
神奈川県市長会／神奈川県町村会／神奈川新聞社／NHK 横浜放送局／
TVK (テレビ神奈川)／FM ヨコハマ

ごあいさつ



今年も皆様から意欲と熱意あふれる作品をご出品いただき、第46回神奈川県美術展をこうして開催できますことを、主催者の一員として大変うれしく思います。

今年で46回目を迎える本美術展は、県内最大規模の公募形式の総合美術展です。昭和40年の第1回展以来、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる美術展として、芸術家を志し日々研さんを積まれている方から、趣味の中で創作活動を楽しまれている方まで、大勢の方々にその成果を発表する機会を提供し、多くの方に親しまれてまいりました。本美術展での入賞を機にさらに活躍の場を広げられた作家の方も多く、その水準の高さは、全国に誇ることができるものです。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門、合わせて1,578点もの応募作品の中から、厳正な審査を経て選ばれたいすれ劣らぬ秀作が展示されています。ご来場の皆様方には、作家の方々の豊かな感性、優れた芸術性に深い感銘を受けられるものと思います。

人々の文化芸術への関心が高まる中、本県では文化芸術振興の基本理念などを定めた「神奈川県文化芸術振興条例」に基づき、昨年3月に「かながわ文化芸術振興計画」を策定いたしました。この計画を基に、文化芸術の振興をより一層進め、県民の皆様が身近に優れた文化芸術に親しむことができる社会の実現を目指しているところです。本美術展が、今後とも、県民の皆様の文化芸術活動を一層活発にし、本県の文化芸術のさらなる振興に寄与していくことを願っています。

結びに、このたびご出品くださいました皆様の創作にかけられる情熱に深く敬意を表しますとともに、本美術展の開催にあたりご尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成22年9月8日

神奈川県知事 松沢 成文

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始めました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第46回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に915人、1,578点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、389人、443点の作品が選ばれました。今年も、多くの方にご応募いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というものは、人生を作りあげていく大切な時間であると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、県立近代美術館様、県議会様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成22年9月8日

神奈川県美術展委員会委員長 原 範行

1 期展

工芸・書・写真

受賞作品目録

工芸

大賞	池田 節子	相模原市	藍遊び	染織
準大賞	佐々木 繁	相模原市	撚紐紋 焼きメ壺	陶
特選	北浦希容子	千葉県	cell	染色
特選	高田 光	相模原市	LIKE	金工
奨励賞	小野 次雄	鎌倉市	乾漆八角菓子器	漆
美術奨学会賞	今林三恵子	横浜市	Milky way / Highway	金工
美術奨学会賞	香川 秀樹	横浜市	ジレンマ (4 個組)	ガラス
大塚テキスタイル デザイン専門学校賞	寺崎 緑	川崎市	Necklace / planet (2 個組)	金工

書

大賞	二瓶 祥舟	横浜市	夜行
準大賞	高橋 麦宇	川崎市	杜審言詩
特選	武田 瞳処	横浜市	錢起詩
特選	松田 紀子	横浜市	吼える積丹
奨励賞	坂東由美子	横浜市	芭蕉の句
美術奨学会賞	相澤 不逸	横浜市	篆刻
美術奨学会賞	村上 湖翠	海老名市	比良山
神奈川県文具事務 用品団体連合会賞	松田 栖舟	横浜市	劉嗣綰雜詩四首

写真

大賞	漆原 利大	横浜市	追憶 (3 枚組)
準大賞	伊藤 敏児	茅ヶ崎市	風
特選	市川 正	葉山町	手植えに限る
特選	佐藤 健司	横浜市	心のふるさと (3 枚組)
特選	三村 信昭	横浜市	邪魔する犬
奨励賞	木所 栄一	川崎市	都市寸景
美術奨学会賞	竹田 宏司	平塚市	残された空
美術奨学会賞	星野 孝子	横浜市	8 時 13 分発 (3 枚組)
ニコン賞	有馬 良江	藤沢市	ブルブルブル

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※大塚テキスタイルデザイン専門学校賞は、(学)大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

海上 文夫	TORSO 1
栗原 未久	春の門
鹿野 公子	亀
小川麻衣子	pattern
川泉 孝一	天目釉白彩大鉢
宮崎 純子	霽
佐藤 雅子	空へ
大塚 国男	月下の華
生頼美砂恵	手あそび (49 個組)
石川ヤイ子	万華鏡
遠藤 章子	scapes (2 個組)
平野 実	漆焼付け皿
山本 裕子	流流
川島 陽一	彩泥壺「薔」
岡田 光子	これから
前原 祥子	色絵クリスマスローズ大皿と 5 枚組皿
穴戸美智子	古木
宮川香代子	祈 (いのり)
原 千鶴子	古都の春 (咲く花のにはうがごとく) 平城京遷都 1300 年によせて (2 枚組)
山内 茂夫	峻嶺Ⅲ
星野加那美	おつかれ パンダちゃん
小島 也実	Alf Laylah wa Laylah
梅田 千晶	結文様漆革器
玉川 哲也	「青波」「菊華紋」
北原ふみ子	創
小林 忠生	菓子皿 (2 枚組)
大原 乾資	麻布 藍の板締染
岡 雅恵	輝の季 ^{とき}
辰井 康雄	彩泥花器・みのり
鈴木 高伸	染付七宝ツナギ文大鉢
菊池 保裕	漆パネル蒔絵「大水青」
高橋 悟	乳白釉掛分皿
中沢有美 (JOY)	ある日
福田 典子	ユリを眺む
西山 義彦	輪花胴紐櫛目皿
高橋 英昭	あかいはな
藤森 京子	「刻 (とき)」
高津潤一郎	U-nyon (9 個組)
狩野サキエ	めぐりあい
fu-ka	cliff

神宮字 光	少女
望月すみ子	鎌倉彫額 (藤)
田中 誠一	無題 (3 個組)
今井 信二	鉄絵銅彩葡萄文壺
佐々木 繁	自然釉 焼きメ壺
浅井 祥子	暮秋
深野 怜	青嵐
大内 明雄	炭化壺
小林 秀幹	ふうわ
藤田貴世美	「能 舟弁慶」波よ波よ平知盛の怨霊が舟上の義経を襲い狂う
小野 次雄	乾漆箱
近藤 純子	「つながる」「ゆらぎ」
金 宰佑	咲く
中島貴美枝	練込花器
永井 貴子	DREAM
山本 朋子	忘れられた食卓 1 (5 個組)
足立 圭世	たゆたう (3 個組)
大島 弥生	桜影
植草 稔	彩炎華
山田 史郎	風を視るためのきっかけ
山本 紀子	真夏のコンポート
長谷川秀樹	RAIN (2 個組)
小島 昭博	くるむ (2 個組)
りなした陽子	廃船
新川小百合	無題
岡野 理生	鍵鎖 - lensa - (9 個組)
宮塚 知代	キャンディーボックス
河野 千種	雨の音
山本貴美子	リトル・ガール・ロスト
望月 薫	WIRE WORK - landscape - (3 個組)
阿部 貴央	変性
福島由佳子	祈り
古川真紀子	彩器・水指
黄 美眞	喜怒哀楽 (8 個組)
加藤 祥代	花と昆虫の器 (5 個組)

書

寺門	楊舟	平壩城南村 其二
橋本	紫柳	和官谷館字
小倉	清舟	送應氏
鶴岡	慎舟	晨起渡江登五峯過比巖寺
深見	萌彩	秋懷 其二
向後	瑛舟	種蓮 其三
穴戸	静黄	判花軒
吉永	幽徑	鬪鷄
上村	泊舟	送女弟
吉川	理芳	望廬山
横山	聖水	流夜郎贈辛判官
佐藤	清紫	山中晚歸
柿沼	柏苑	秋懷
三橋	和泉	陶淵明詩
二瓶	香苑	秋山懷友
水川	芳竹	剛巖
青木富美子		岳峻基厚
新井	青谿	自天界寺移寓鍾山里 高啓詩
木村	愛子	山家集より
木村ちさ子		新古今和歌集より
筒井	節子	古今集
吉田	青粋	新古今和歌集より
奥野	知行	韋編三絶
善入	正英	憐児不覺醜
國峯	正美	虚心無想
中澤	春雪	永福門院うた
棧敷	東煌	ただ一人
阿久津梓苑		秋の夕暮
吉成	慶雅	秋の夜の月
中村	霽澄	柿本人磨の歌
加藤	心圓	富士
藤井	芝泉	秋の月
岡本	光草	木槿の花
岡田	真静	撫子
伊東	光石	白楽天詩 百花亭晚望夜歸
藤倉	汀雪	春望
小松	公子	まつひと
鈴木	良子	朝ぼらけ
池上	恵峰	花咲く春は
丸山	武司	百人一首

木下	清華	赤とんぼ
浅間	静江	近世歌謡集
川手	敬湖	小倉百人一首
重田	鶴耀	項斯詩
柘植	溪如	和歌三首
山田	栄恵	和歌 4 首（山ざくら・・・）
黒川	鶴翠	王英詩
富岡	真華	杜甫詩 書堂飲既夜復邀李尚書下馬月下賦絶句
小磯	栄芳	王維詩
井上	春苑	杜甫詩
鈴木	健夫	政貴有恒
杉村	荘雲	李白詩
山岸	陽子	百人一首
黒岩	照芳	鄭紀詩
森	秀麗	灌花
高川	朋茜	情詩
林	鶴芳	王応鵬詩
高木	香葉	桐廬道中書所見其二
島村	秀芳	李白詩
柿沼	芳秋	雨夜懷其年園居
森崎	愛芳	甘復詩
平出	節子	石川啄木の歌
入澤	亮太	三ヶ島葭子歌
山本	清子	菜穂子の詩 輪廻
石井	久美	菜穂の詩 黄土の鮮紅
竹内絵里子		森田新菜の詩 浜木綿
竹内めぐみ		宮本博志の詩 三日月
川崎	純子	後藤美華の詩 サーカス
日守	鍊	古屋恵美子の詩 星のない東京
小林	千幸	五月の風
堤	智子	滴の儚き行方
平船	清流	新緑の上高地
本間	琴秀	山本暮馬の詩 山上にて
松本	弘子	淳子の詩 水のうた
塚田	柊花	伊東静雄の詩 夕の海
久村	拓司	大貫裕司の詩 風花より
小倉	清子	大木明子の詩 絹道の風
相馬	澄月	与謝野晶子のうた
谷内	秀翠	北原白秋の詩 城が島の雨
福本	泰子	夕景 城井雨咲の詩

柴本 華雪	大竹蓉子の短歌
上野 春海	生命 今川正樹の詩
長井 黙庵	東山魁夷の風渡る丘
保科 千絵	ロンサールの詩
大野 博	隣笛之聲
山岸 青城	春あらし・・・
飯田 容風	良寛のうた
川名 晞心	舟中夜起（蘇東坡詩）
米澤 千松	よし野山
小田 明雪	蘇頌詩
阿部 馨月	白露
片岡 嵐山	豊嶺即事
板越 蒼龍	李憑箏篋引
藁科 良信	道の辺に
小山 荘雪	即事
野頭 荘雲	秋思
平松 京子	龍江紀事
佐々木永隆	梓のもみぢ
小嶋 直子	竹の落葉
武 啓茜	春日野
添田 紫苑	重陽前一日過適園呈李西華友棠侍郎
西澤 蒼海	梁寅詩 歸醴溪
神山 紅雲	宗泐詩 答夏景瞻
片岡 稻處	崔顥詩 行經華陰
浅見 玲湖	峴山懷古
秋山 克彦	學道則愛人
相根 恒舟	百人一首 二首（田子の浦に…）
加藤 美和	母
榎本 蘭方	かくばかりをしと思う夜をいたづらに寝であかすらむ人さへを憂き…………
喜多 光蓮	万葉のうた
横山 弘子	袖の香
田辺 翠香	啄木の歌三首
河又世津子	さにづらふ
松本 亘正	顔延年詩
若林 茜粧	晋 博文
新 景園	吳蘭雪詩
安地 翠石	呂大器詩
猪俣貴美枝	何景明詩
土屋 景曄	徐青藤詩
根岸多江子	李夢陽詩

楠井 杏花	中秋登東阿城樓
大澤美佐子	秋かぜ
栗田 霄谷	孟冬朔日菊尊小集次韻 答賓谷丈 吳蘭雪詩
中田 早苗	天高群星近
猪野 光舟	従吾所好
田草川雅子	今さらに

写真

米山 悦朗	仲間達
鈴木喜三郎	花びら追う少女
古澤 直代	幻影
野澤 進	紅土地と棚田（月亮田）
小柳 朝明	授乳中（2枚組）
石渡 延次	川瀬神幸祭（3枚組）
岩崎 茂樹	海砂の造形（3枚組）
宮坂 猛	赤い雪山を憂う（2枚組）
落合 知子	長老の風格
原田 健兒	ブラックカラー（3枚組）
安藤 航	灼熱地帯の女達（3枚組）
竹内 修	水門のある風景
小澤ミヨ子	静寂
大出 光信	運命（3枚組）
土谷 尚雄	ふしぎな大地（3枚組）
金子 久隆	祭りの日（3枚組）
小林 俊弘	凜として咲く
栗野 蝶	幽玄
中山洋之助	運命（3枚組）
岩崎佐代子	昼下り
佐藤 吉一	翔美の舞（3枚組）
荒島 謙一	私怖くないでしょ（3枚組）
横田 千露	泣く子
鈴木 達朗	野毛（3枚組）
上原 勝夫	収穫のよろこび
大西 紘昭	おちば
関口 幸雄	マシーン（2枚組）
大久保武人	ああ無情
宮坂 駿一	浜辺（3枚組）
桐畑 政義	ハチ公前乗車
若杉 義男	好日予感（3枚組）
神蔵 和明	新旧住処
伊部 慶一	追憶
古塩 政由	夏の思い出
三田 敏雄	雨のシダレ桜
山下 泰雄	華
長尾 宏	路地裏の寸景（3枚組）
小沼 公子	悠久の街角（2枚組）
吉田 喜久	思春期
小島 満男	盛夏

深瀬 彊	昔日の影（3枚組）
笹尾 敏子	左義長（3枚組）
井出 祥子	遊幻
元上 徹夫	豊年満作（3枚組）
市川 雅章	兄弟
吉原 靖男	ある浜辺の朝の光景
斉藤ひろ子	もえる大空
大濱 秀太	私の愛すべき街は常に全ての誕生に満ち溢れ、同時に全ての退廃の美によって包まれている。（3枚組）
三枝 昌弘	満開の宴
高浦 正幸	ねこ と おばあちゃん
田中 洋一	古樹の相（3枚組）
小島 輝夫	凍てる岳 ^{やま}
米山 好人	独り身（3枚組）
伊藤 正一	湘南夕暮
若井 昭二	左義長

工芸

まず、今回の応募点数と入選数、およびその昨年からの推移について報告する。今回の応募点数は 143 名による 171 点、入選数は 85 点。昨年比で、入選数は 1 点減。しかし、応募作品数は、前回（45 回展）の 192 点に対し一割の減、同じく前々回の 215 点（うち入選は 86 点）に対しては 2 割減、なんと 1 年に 1 割ずつ減っているのが実態である。

もちろん、公募展の応募数減退という現象じたいは、分野・地域を問わず起きていることであり、ここで取りあげるには問題が大きすぎる。しかし、本展の工芸部門に特有と見られる事情もあるので、ここでは、特に次の 2 つの点に限り、注意を喚起しておきたい。

一つ目は、応募点数の減少に応じた入選点数の削減を今回は行わなかったこと。入選作品の質を保つという意味では、応募数が減った分、入選数を減らすのが妥当であろう。しかし、今回は、あえて昨年並みの入選点数とした。結果、1 票でも票が入れば入選である。それは、このまま縮小傾向が続くよりも、多少の質の低下には目をつぶり、長い目で見て工芸部門を盛り立てるほうを取ろうという審査員の判断が働いた結果である。それが効を奏するのかどうか、次回以降、検証しなければならない。

もう一つの問題は、近年の工芸部門の応募数減少の一因に、工芸部門から立体部門への「作家流出」があるようだということ。前回から続けて審査員を務めておられる方によれば、鍛金や陶、フェルトなど工芸性の強い素材や技法を使っていながら、県展への応募に際しては、工芸部門ではなく、あえて立体部門を選ぶ作家が少なくないという。最初は工芸部門で県展にチャレンジし、2 回目以降から立体部門に転向する作家も見られるようだ。なぜか。工芸部門に比べ立体部門のほうが賞金が高額である、という要素も無視できないが、果たして理由はそれだけか。工芸部門の応募者数と作品水準の維持を望むなら、この問題の根は掘り下げるべきであろう。もちろん賞金額の件も含めて、である。

では次に、入賞作品について。大賞《藍遊び》は、二

枚の布を重ねたスクリーン状の染織作品。表面の凹凸に加え、布の重なりで文様が見え隠れする、錯視的な面白さがある。視覚と触覚を複合的に喚起するとともに、二枚の重なりで空間性を取り込むという、工芸的造形の利点を最大限に活用した意欲作。ただし、二枚の布の重なりや、それぞれの寸法などに「ああもできるし、こうもできる」という作り手の甘さもうかがえる。「こうであらねば」という線を見極めるような厳しさををもって、制作に臨んでほしい。

準大賞《燃紐紋 焼めめ壺》は、確かな技術によって実現した定型的な造形が、そのまま作品の風格につながった佳作。肩から口縁にかけての文様は、独自性がありながら無理がなく、何の違和感も感じさせない。その意味で、いかにも工芸らしい美質を思い起こさせる点を特に評価したい。なお、奨励賞《乾漆八角菓子器》も、同様な視点から評価の対象とした。

《Cell》《LIKE》の特選 2 点は、いずれも準大賞とはまた違った意味で、工芸の意義を認識させる作品。既成の技術や様式にこだわらず、材料をじかに手にとり、弄り回す中から生まれた未知の形に新鮮な感興をおぼえた。

美術奨学会賞《Milky way/High way》は、作者の構想力とともに、その鍛金の技量や集中力にも好感が持てた。一方の《ジレンマ》は、特選作品にも通じる造形的な新鮮味が評価されたが、アイデアを作品化する上での、もう一つの「何か」、いわば「表現性」ともいうべきものを確立して、作品としての強度を増してほしい。

最後に大塚テキスタイルデザイン専門学校賞は、《Necklace/Planet》を選んだ。透明に見える部分がじつは凹面の鏡面体であるという意外性が楽しい、ジュエリーの佳作。なお、審査員のなかでは、本作を賞作品として選ぶにあたり、工芸作品にとって大きさの意味とは何か、公募展における大型作品の優位性を、工芸の場合どの程度まで勘案すべきか、という点が議論されたことを付け加えておきたい。

（富田 康子）

書

今年の出品点数は216点と昨年比で約20点の減。このところ徐々に減少傾向にあるが、中でも漢字部門の減少が際だっていること、若手の出品数が少ないことが重点課題となっている。ただし本年度の出品作品は、昨年度よりも全般に充実した質であったことが審査会で確認された。これは出品者の意欲の現れと見なされ、今後出品者同士が互いに切磋琢磨できるよう、是非周辺へも声を掛けていただきながら参加を促していってほしい。

さて本年から新たに奨励賞が設けられた。若手作家育成への施策として設置されたものである。今後の発展が期待される褒賞で、この受賞者については、三十歳代以下を対象とすることに審査員の間で一致をみた。書は作品制作の上で熟練度が主たる要素となるため、例年、どうしても受賞者は六十代前後に偏る傾向がある。そうした中、今回の大賞受賞者は四十歳代ということもあり、この奨励賞と相俟って、いよいよ力量を得た若手作家が意欲的に参加、出品してくれることを審査員一同、切に願っている。

大賞の二瓶祥舟「夜行」は行草で漢字四行にまとめる難易度の高い構成だったが、鍛えられた技術力と若々しい感性をもって、一気に呵成に筆を走らせた秀作と好評を博した。墨量の変化も豊かで表現に迫力があつた。通常では紙面の上半分に重厚感を置き、下半分を軽快にする構図だが、本作ではあえてこのバランスを逆転させた点で斬新さが光った。準大賞も同じく行草漢字書からの受賞。高橋麦宇「杜審言詩」は明るく飄逸とした味わいの

ある作品で、引き締まった線條が充実していた。横展開の構成の中、前半の大らかさと躍動感に対して、最後三行が詰まって重く感じられるバランスについてやや課題を残した。特選は空間の美しい二点。近代詩文書の松田紀子「吼える積丹」は、余白と墨のコントラストが実に美しく、明確な字形と抑制の利いた運筆が評価された。大小の変化と筆画の傾斜にも工夫のあとが窺えた。行草三行の武田瞳処「錢起詩」は斬新なピンクのマーブリング紙を用い、その装飾に呼吸を合わせながら配字した点が効果的であった。明清調行草体の構法を伸びやかな筆致で走らせつつ、宋代風の平らかな字形を交えたところや、二字連綿の急なつめ方に現代的工夫があつた。奨励賞の板東由美子「芭蕉の句」は、全体の中で最も審査員の目を惹いた秀逸な作品であった。点画のしっかりとした筆使い。漢字書風の筆致に仮名風の呼吸を合わせた個性的作風に新鮮味があつた。これら三点については、次回、ほかの傾向の作品も見たい。最後に奨学会賞の相澤不逸「篆刻」、連合会賞の松田栖舟「劉嗣綰雜詩四首」はいずれも力作であったが、作品構成のバランスについていくつか再考の余地があるとの指摘があつた。

残念ながら本年度は仮名、大字書の受賞がなかった。高得点の作品もあったものの、個性的な変化を求めるためか、残念ながら一部に誤字と判断せざるを得ない書きぶりが認められたためであった。これらの部門については、今後、特に若手作家の参画を期待したい。

(笠嶋 忠幸)

写真

粒ぞろいの作品。今年の応募作品の特徴をひとことであらわすなら、この言葉がふさわしいように思います。「突出したものがない」という声もありましたが、それと同時に、「質の低いものがない」という声も聞こえた審査会場、各審査員の姿勢は、ちょっとした違いを見分けよう、見逃すまいと、終始真剣そのものだったように感じました。

ではこの、ちょっとした違いとは何か。応募された方や写真愛好者の方は、そのあたりを考えながら、受賞作、入選作をご覧になると、興味深いのではないのでしょうか。モチーフ、カメラワーク、フレーミング、瞬間、仕上げなど、ちょっとした違いを形作る要素はさまざまです。とはいえ不思議と、その違いは審査員が共通して感じたものでもあります。なぜなら評価に関して、各審査員の間には、大きな食い違いがなかったからです。

大賞となった組写真「追憶」は、このことを物語る好例でしょう。紋切り型に収まりがちな横浜らしいモチーフをうまく配置したフレーミング、ガラスなどの反射を巧みに用いたイメージは、見れば見るほど味わい深くなってくる趣があります。強烈なインパクトがあるわけではないこの作品が高評価を得たのは、まさに、ちょっとした違いの熟達した積み重ねによるものではないでしょうか。

準大賞の「風」は、流し撮り的なスナップショットで、女性の軽やかな動きをとらえた作品。光と瞬間が見事にマッチした表現だといえましょう。特選「邪魔する犬」は、

超広角の描写を活用した一発芸的な面白さが目立ちますが、じつは、フレーミングの妙があります。同「手植えに限る」は、ストレートながら、この一枚に日本の農業が凝縮されたような繊細な作品。同「心のふるさと」は正統派のモノクロ写真で、思いきりのいい組み方も見事です。奨励賞「都市寸景」は、造形的ななかにも動きが感じられる抽象的な世界。美術奨学会賞「8時13分発」は、駅と通勤という見慣れた光景をストーリー的に展開したドキュメント。同「残された空」は、水田への反射を活かし、単純な対比にとどまらず、さまざまな読み方ができる一枚。ニコン賞「ブルブルブル」は、瞬間とフレーミングがうまく噛み合ったダイナミックな作品です。

こうして入賞作の魅力を記してみますと、必ずしも絵に描いたような傑作ではないことに気づきます。撮る側としては、いわゆる傑作をどうしても模倣したくなるものですが、逆にそうした写真は、ありふれた作品になりがちだということではないでしょうか。

絵にならないと思われていた対象、身の回りのモチーフ、ふとした瞬間を作品へと展開できるのが、写真表現ならではの力です。本展への応募は、そうしたことに客観的に気づく機会にもなるでしょう。受賞、入選した方、惜しくも入選を逃した方、そして本展に興味を持たれた方など多くの方々に、ぜひとも来年もチャレンジして頂きたいと思います。

(上野 修)



大賞 藍遊び：池田 節子

糸 染織 450 × 80cm 300g

〔略歴〕

1947 神奈川県座間市に生まれる

1969 相模女子大学学芸学部卒業

〔受賞歴〕

2006 神奈川県美術展 特選

2007 神奈川県美術展 美術奨学会賞



準大賞 撚紐紋 焼きメ壺：佐々木 繁

土 陶 42 × 42 × 35cm 13kg

〔略歴〕

1951 4月2日相模原市緑区（旧津久井郡藤野町）沢井に生まれる

1962～縄文土器焼成 実験始め

1964～楽焼き焼成 実験始め

1968～灯油バーナーでの焼成 実験始め

1970 オリンパス光学株式会社に入社

1979 共同制作穴窯の築窯 焼きメ焼成 実験始め

1986 穴窯 築窯（独立第1窯）

1988 穴窯 改築

1990 穴窯 築窯（第2窯）

1992 穴窯 築窯（第3窯）

現在に至る



特選 cell : 北浦 希容子

綿 (古着) ・ ポリプロピレン (遮光ネット) ・ ホース 染色 40 × 40 × 40cm 5kg



特選 LIKE : 高田 光

鉄 金工 25 × 90cm 10Kg



奨励賞 乾漆八角菓子器：小野 次雄

麻布・漆 24.5 × 24.5 × 9cm



美術奨学会賞 Milky way / Highway：今林 三恵子

銅 金工 141 × 104 × 6cm 25kg



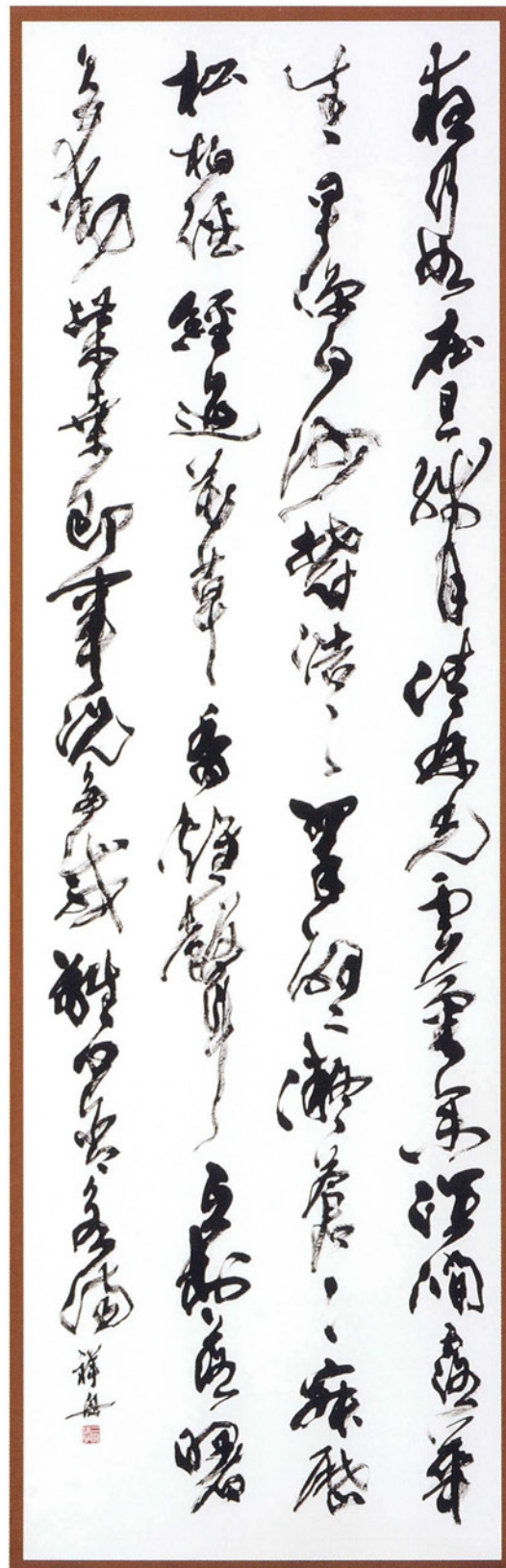
美術奨学会賞 ジレンマ (4 個組) : 香川 秀樹

ガラス 30 × 30 × 14cm 5kg



大塚テキスタイルデザイン専門学校賞
Necklace / planet (2 個組) : 寺崎 緑

銀・箔・ステンレスワイヤー 金工 23 × 16 × 1cm 300g

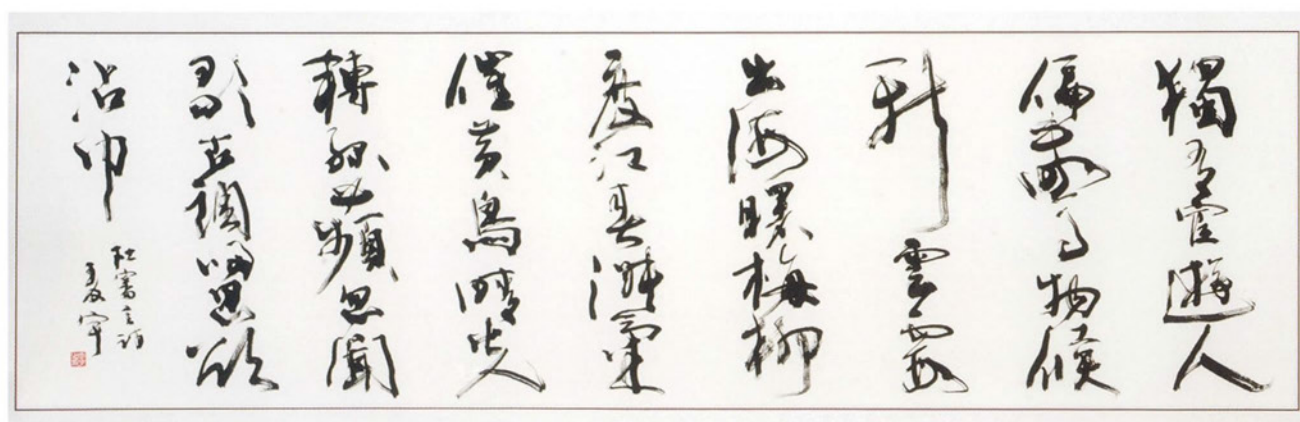


大賞 夜行：二瓶 祥舟

182 × 61cm

〔略歴〕

1964 東京都出身
成蹊大学 文学部日本文学科卒業
毎日書道会会員
芳林書道院事務局長
水川舟芳に師事



準大賞 杜審言詩：高橋 麦宇

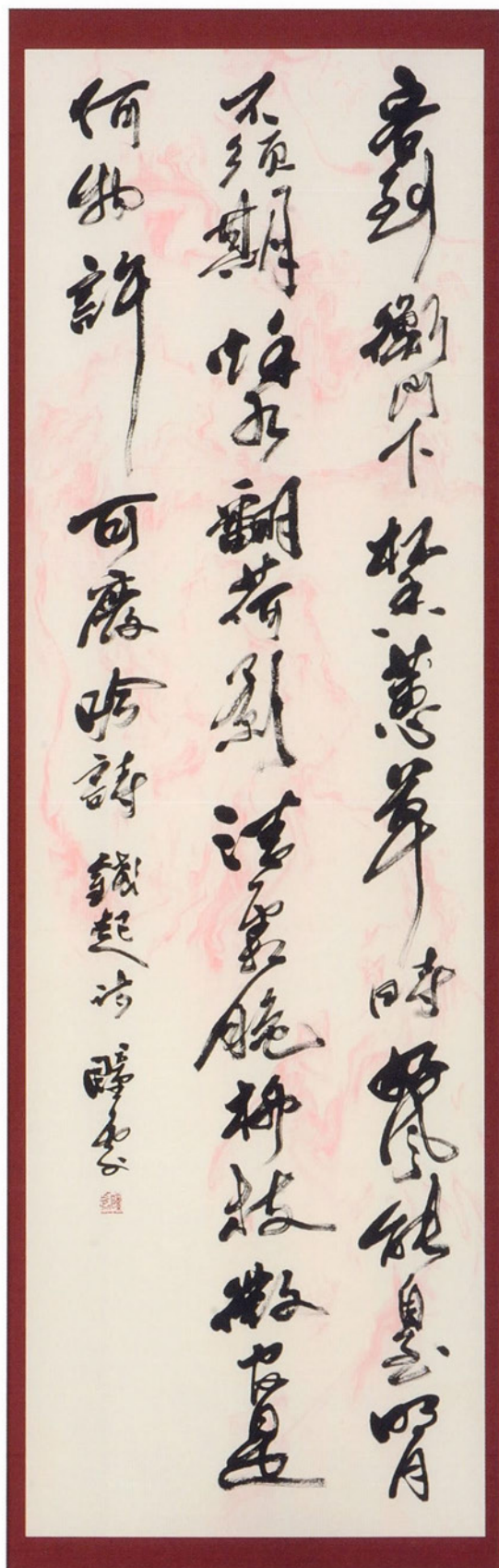
182×61cm

[略歴]

1945 神奈川県生まれ
日展入選
読売書法会理事
謹慎書道会理事
青山杉雨、成瀬映山、梅原清山に師事

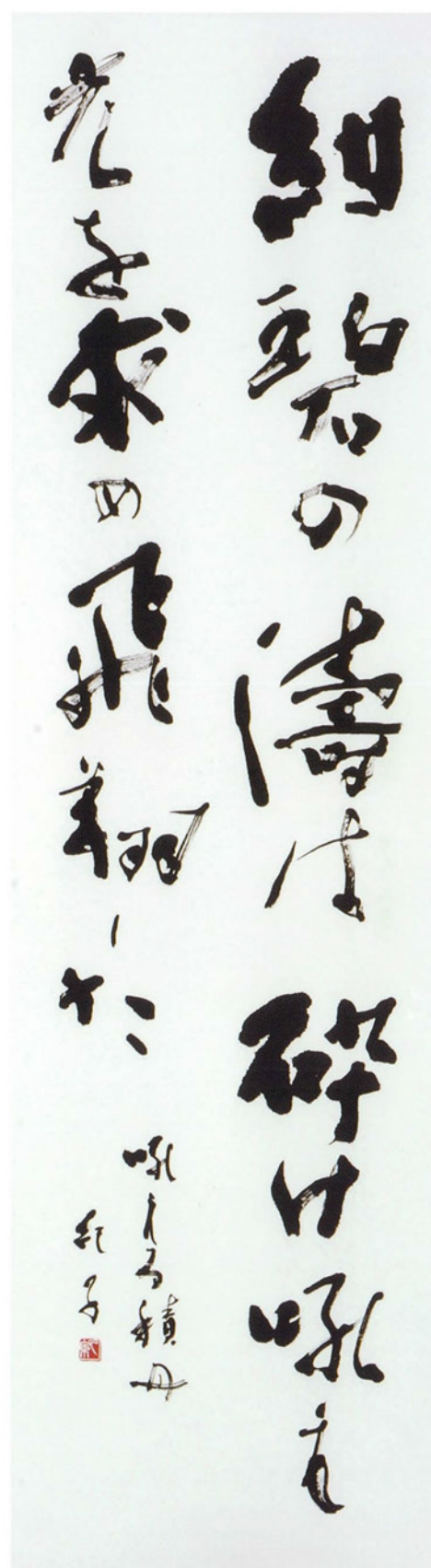
[受賞歴]

第44回神奈川県美術展 特選



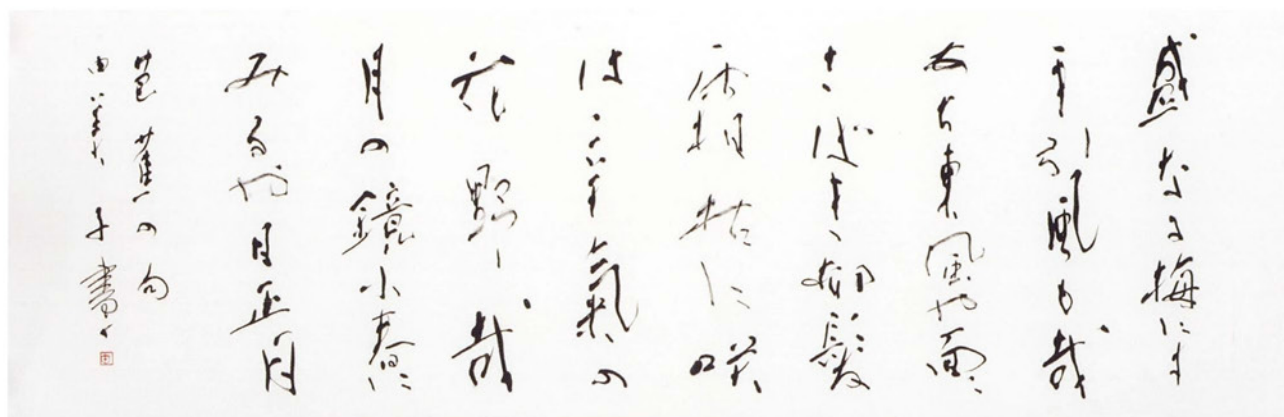
特選 錢起詩：武田 瞳児

182×61cm



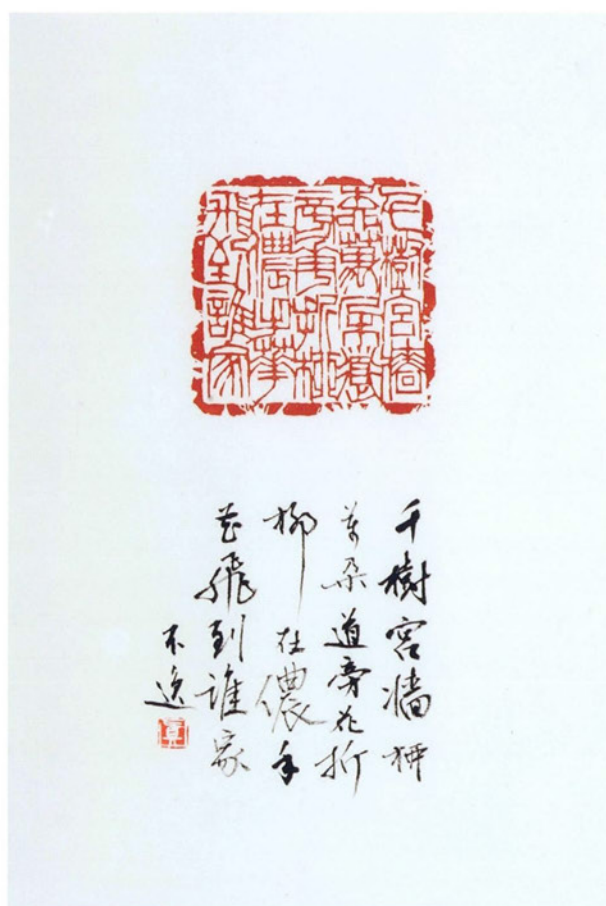
特選 吼える積丹：松田 紀子

182×61cm



奨励賞 芭蕉の句：坂東 由美子

60 × 180cm



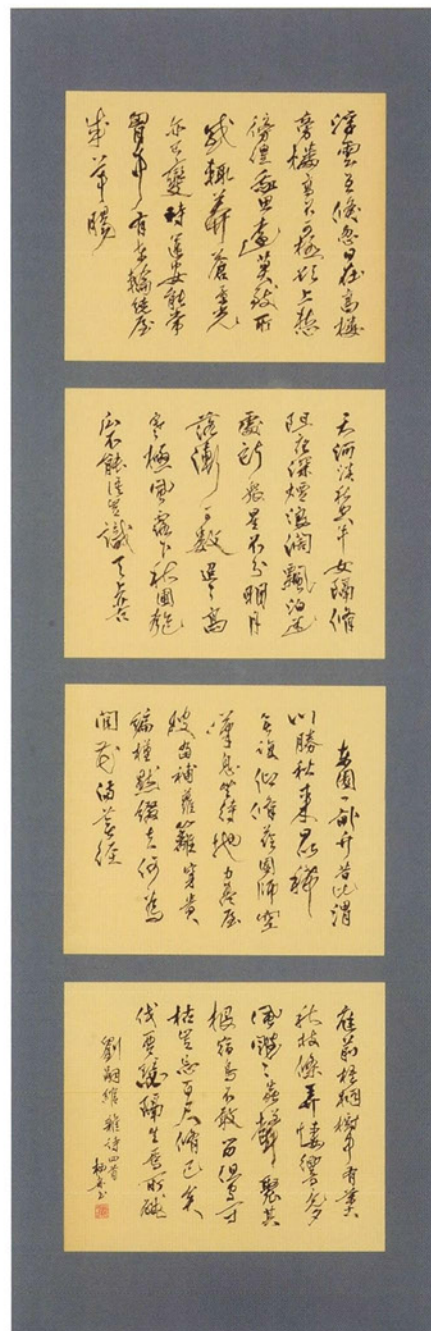
美術奨学会賞 篆刻：相澤 不逸

40 × 30cm



美術奨学会賞 比良山：村上 湖翠

61 × 182cm



神奈川県文具事務用品団体連合会賞
劉嗣綰雜詩四首：松田 栖舟

182 × 61cm



大賞 追憶（3枚組）：漆原 利大

〔略歴〕

1946 横浜市生まれ
1969 法政大学法学部卒業
5年ほど前から本格的に写真を撮り始める

〔現在〕 フォトクラブひよし所属
キヤノンフォトサークル会員

〔入賞歴〕

2006 秋山庄太郎記念「花」写真コンテスト 入賞
2007 全神奈川写真サロン公募展 横浜市長賞



準大賞 風：伊藤 敏児

〔略歴〕

1941 神奈川県生まれ
高校生の時より写真を始める
横浜カメラクラブ会員（元）
瓢蟲社同人（元）

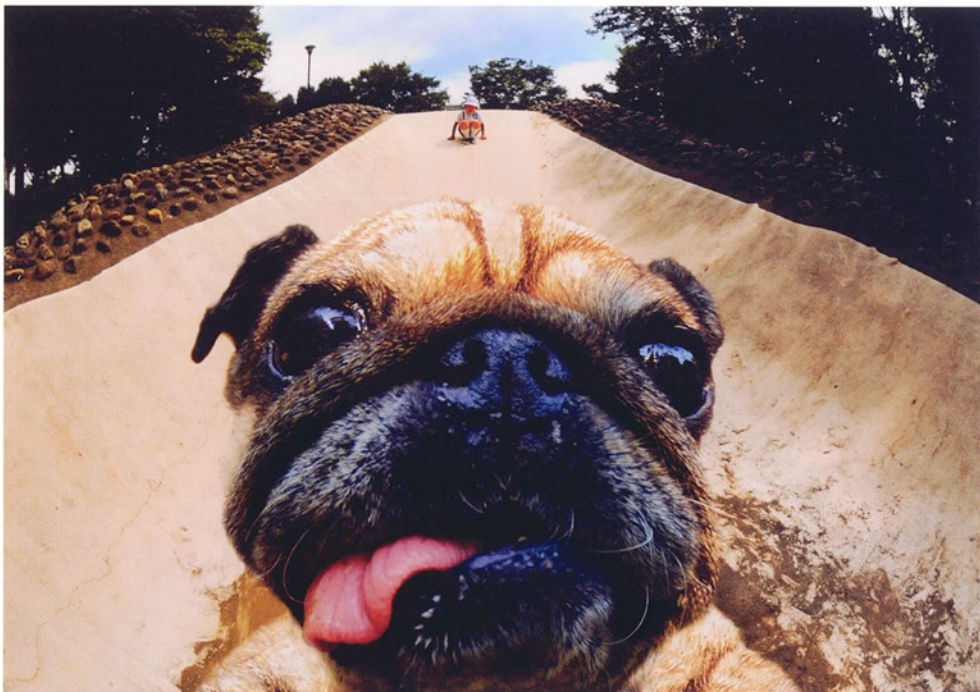
〔現在〕 全日本クラシックカメラクラブ会員



特選 手植えに限る：市川 正



特選 心のふるさと（3枚組）：佐藤 健司



特選 邪魔する犬：三村 信昭



奨励賞 都市寸景：木所 栄一



美術奨学会賞 8時13分発(3枚組): 星野 孝子



美術奨学会賞 残された空: 竹田 宏司



ニコン賞 ブルブルブル: 有馬 良江

2 期展

平面立体

受賞作品目録

平面立体

大賞	菅原 有生	東京都	くさはら I	平面
準大賞	棕本真理子	東京都	cut out	立体
特選	羽田 雄貴	東京都	form	平面
特選	吉竹 昌子	茅ヶ崎市	5月とジャーマンアイリス	平面
奨励賞	小池いずみ	相模原市	tense VIII	平面
県立近代美術館賞	吉本 伊織	横浜市	景	平面
美術奨学会賞	高橋 彩	東京都	Rat	立体
はまぎん財団賞	内田 充	藤沢市	吉澤久美子	立体
県議会議長賞	上條ヨシヤス	藤沢市	どこから来たの？	立体

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

飯村 優介	スイショウカイジン LH
村上由紀子	聴く
小花 春夫	記憶のたまり場
佐藤 英行	the yokohama
藤原 浩司	10718
角谷沙奈美	ハコニワ
野口 智弘	望－ wish －
藤森 哲	ここそこに在る
若宮 煦子	引潮
小澤はるみ	Intimacy － 4℃
花井このみ	窓
伊東 玲子	うぶこえ I
山脇 勇大	Moire # 3
安藤 節子	光のゆくえ I
横田 綾子	理解不可能な時間(2)
福島亜紀子	glimmer light
高木 彩	bloom
鈴木 愛弓	ゆく道は金木犀の香り もうすぐ冬が来る
石田 直子	閉ざされた部屋
朝倉 優佳	花 I
古徳 明子	千の踊り子
棕本奈津子	眠る直前に見る夢
岡本ヒロシ	とざい! と～ざい!!
横山 博志	狩人の行進
井上 洋介	ふたり
巖 慧蘭	夜が終わり、パーティーが始まった
白 寅恵	木空、空木
青木 藻美	掟
小泉 千織	哲学のない手記
清水 香帆	走って響く
室町 克代	日々の中から
熊本 由比	何を映す
中村 桜子	はるの くらら
長谷川 大	line play ひかりとみずのあいだ
米山 幸助	雑木林に囲まれた日本の動物園でインドサイを飼う
河瀬 磨未	揮発する記録
渡辺 佑基	ぷられーる (3 枚組)
岩瀬 哲夫	きいろのへや
増田眞由美	朝 I
石河 靖子	「とり」と数字
中神ふみ子	My memory
高野真木子	かすかな声に耳をすます II

井口 信	宇宙と宇宙の出逢う時
渡辺 幸子	影 I
安田 文夫	LIVE IN CHIGASAKI
池田八重子	予感
加藤 哲郎	マンドリル
堀切 朋子	umbrella
出羽 由紘	カラー I
八木 厚紀	素因の因果律
矢田谷 智	風韻－ I
関 迪子	「コンポジション II」
木村 月子	Whole
鈴木 かよ	あかりをたどって
澤田 サチ	琳・様様
穂積 千幸	Geluk-7 (ヘルック-7)
鈴木 滋子	あるだけの宇宙
中山 智介	地の輪
近藤 薫	八千代蝶の霊応
小野島夏子	在るから在るへー時間旅行ー
渡辺香代子	My baby
滝野 初江	秋日無為
吉田 純子	scene8
横山 瑛子	めぐる人
飯島 洋子	ある日
村杉 哲子	光の舞 10-Ⅲ
竹村 芳樹	赤
田口 弘勝	花かんざし.3
高橋 幸子	ある日 A
稲葉 明子	水の記憶 A
与那覇大智	Home－散策 1033－
勝山 治実	「ウメ子おー!」
田嶋 佳子	てて
新恵美佐子	花
石黒 絢実	囁き
金子 透	ESPACE
明定由香里	田植えのとき
茂野あきこ	白を紡ぐ (Ⅱ)
根本 雅行	cyan
雄鹿 靖二	木々 2
岩堀 洸明	嘔吐
六島 芳朗	残滓
福田 直子	キオク ノ キロク

立体

阿部 佳明	在日邦人難民
尾利出あゆみ	Oh my chains!
窪田 俊三	35 の波板
笠谷 耕二	花より携帯（5 個組）
天野 浩子	けはい（2 個組）
磯 俊宏	nostalgia
松井香楠子	grow
塩崎 遥	分割された牛
桂 沙依香	実のなる家
竹村 芳樹	芽
田中 清隆	居場所 ～のさめない距離
渡辺 智美	足立先生の授業
内田 望	Kagerou
関口 利行	祭りだ
菅原 裕之	remains（10 個組）
佐藤ちさと	シエスタ
佐藤 正明	ナミダのいみをしってるかい
長尾 幸治	漂う

平面立体

「神奈川県展 10 年」

権威ある神奈川県展の審査に初めて参加させていただいた私の第一印象は、前回からその傾向はあったようなのですが、思っていたよりもおとなしい作品が多いことでした。先の見えない、それゆえに内向し、みずからの根拠を模索せざるをえない目下の社会状況の屈折した反映をここに見ることもできるように思います。

大賞となった菅原有生さんの《くさはら I》（麻紙・岩絵具）は自然の一隅をあえて陰画で表現したかのような、やや神経質な、まさに内向的な「写実」。大きさも控えめで、華麗な彩色があるわけでもない。にもかかわらず高い評価をえたのは、伝統もしくは因習的な表現に安住しがちな「風景」にたいする批判的な姿勢に真実味が感じられたからです。

興味深いのは、同じような批判的な視点が準大賞、棕本真理子さんの《CUT OUT》にも見られることです。山岳風景あるいはその構造を FRP で切りとった (cut out) 模型でしかない、その意図的な安っぽさが逆に新鮮な印象をあたえたのでしょう。

今回の「平面」の大きな特徴は、大賞もそうでしたが、岩絵具を用いたいわゆる日本画に優作が多かったことです。特選、羽田雄貴さんの《form》はかたちをなぞりながらも、絵具そのものの存在感を全面に張らせた意欲作。同じく特選、吉竹昌子さんの《5 月とジャーマンアイリス》は創造への衝動が媒体（岩絵具とコンテ）に乗り移った、けれん味のない正攻法の表現に好感がもてます。

県立近代美術館賞、吉本伊織さんの《景》は重苦しい天と地を黒鉛に封じ込めたその手際がみごとな「抽象」

ですが、やや小ぶりな印象をあたえたのが惜しめます。これに対し、はまぎん財団賞、内田充さんの《吉澤久美子》はモデルに即した等身大の「具象」彫刻。砂岩の身体と樟の衣服の取り合わせの妙に新味を感じました。これはごくふつうの肖像ですが、入選こそしませんでした。今回の「立体」には異様な身体（あるいは死体？）の表現が散見されたのは特筆すべきことでしょう。目下の過酷な、非人間的な状況とどこかでつながった、それらの淫靡な雰囲気的一端は、漫画雑誌を潰して何匹ものネズミに作り替えた美術奨学会賞、高橋彩さんの《Rat》に見ることができます（ネズミときいて、すぐさまカミュの『ペスト』を連想するのは私だけでしょうか？）。

それにしても私たちは何という不分明な時代に生きているのでしょうか？ 県議会議長賞、廃材を寄せ集めて捏造したかのような上條ヨシヤスさんの《どこから来たの？》はそうした不分明さのみごとな隠喩と言えるでしょう。また奨励賞、小池いずみさんの、毛糸を張りつめて顔を構成した《tense VIII》のきっぱりとした表現に私たちがひきつけられるのは、混迷を深める状況にたいする反発によるものなのかもしれません。

以上、受賞作品を見てきましたが、審査員たちの注目を集めた作品は他にもいろいろとありました。岩瀬哲夫さんの《きいろのへや》は決るような人体表現に凄味を見せ、藤森哲^{きとし}さんの《ここそこに在る》は現代に遍する不安をとらえた異色作。内田望さんが金属でこしらえた《kagerou》、この異様な昆虫が飛ぶのは、暗く屈折した時代の、絶望をやどした大気なのかもしれません。

（本江 邦夫）



大賞 くさはら I：菅原 有生

麻紙に岩絵具 130.3 × 162cm

【略歴】

1987 生まれ。

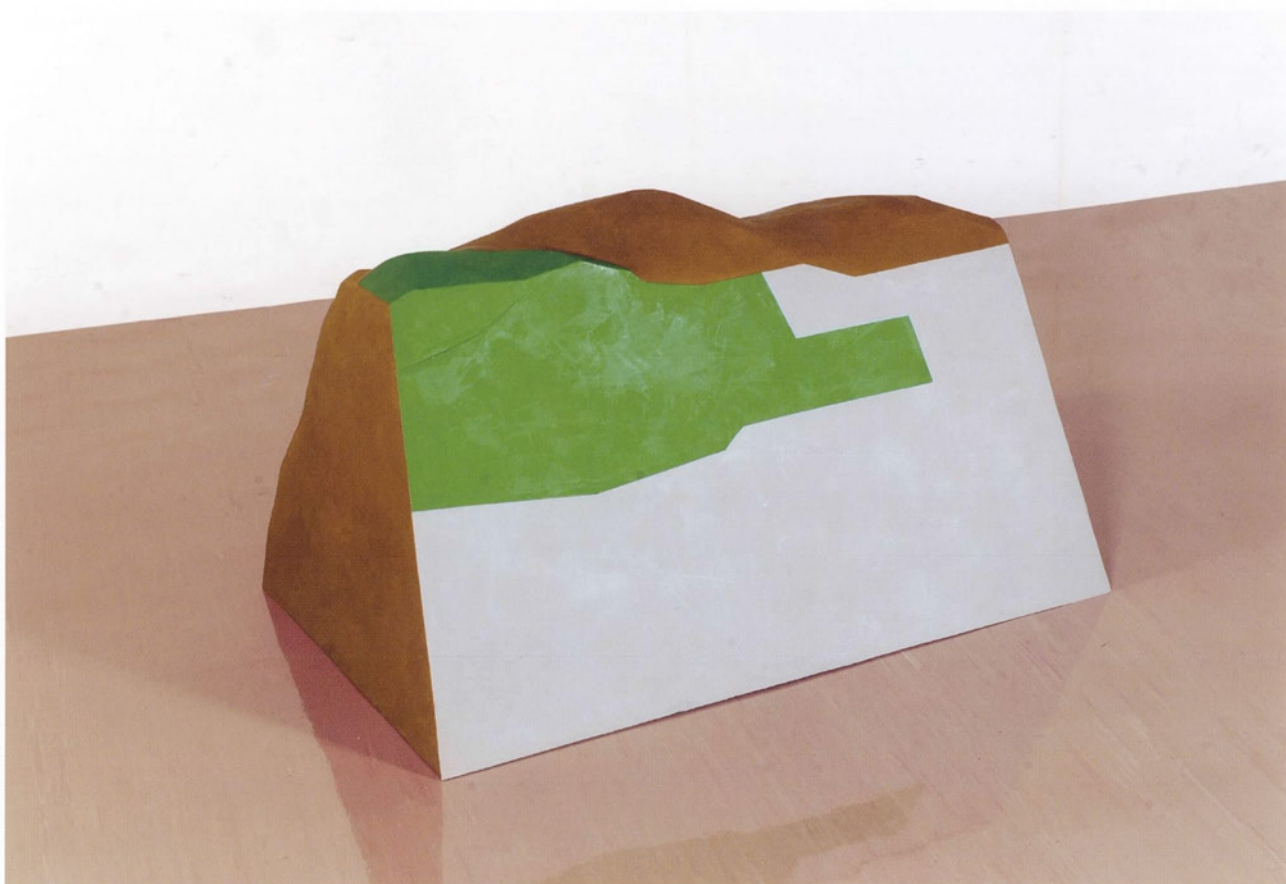
2007 武蔵野美術大学日本画科入学

2009 第9回佐藤太清公募展 入選・全国巡回展

2010 三菱商事アート・ゲート・プログラム奨学生

2010 佐藤国際文化育英財団 第20回奨学生

現在、武蔵野美術大4年在学中



準大賞 cut out : 棕本 真理子

FRP 79 × 125 × 68cm 15kg

〔略歴〕

1988 神奈川県生まれ

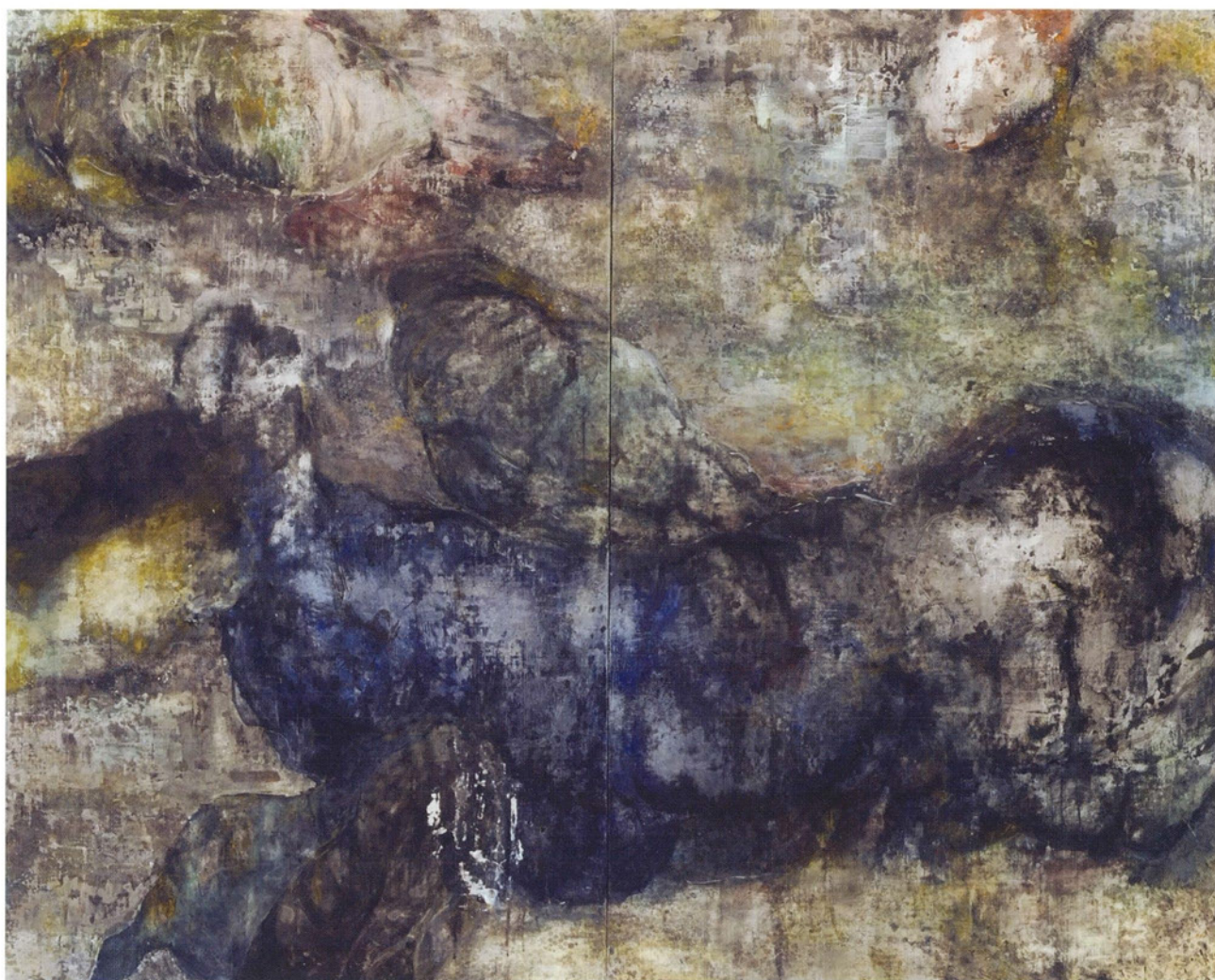
2007 武蔵野美術大学 彫刻学科入学

現在在学中

〔展示歴〕

2009 小平アートサイト09 野外展示

2010 理化学研究所展示プロジェクト参加



特選 form : 羽田 雄貴

膠彩 182 x 227cm



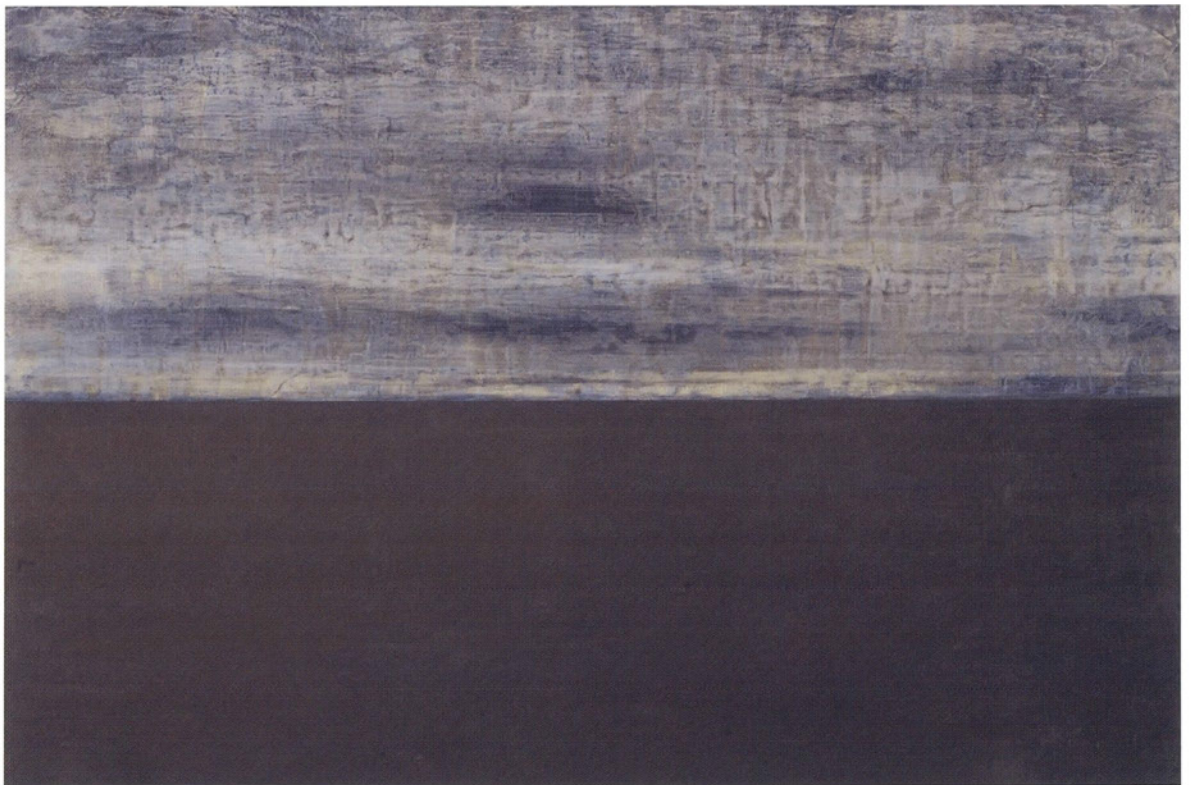
特選 5月とジャーマンアイリス：吉竹 昌子

麻紙・岩絵具・コンテ 227 x 181cm



奨励賞 tense VII：小池 いずみ

パネル・毛糸 195 × 162cm



県立近代美術館賞 景：吉本 伊織

黒鉛・アクリル絵具・墨 100 × 150cm



美術奨学会賞 Rat：高橋 彩

漫画雑誌・金銅 300 × 300 × 20cm 2kg



はまぎん財団賞 吉澤久美子：内田 充

砂岩・樟・鉄 50 × 50 × 170cm 100kg



県議会議長賞 どこから来たの？：上條 ヨシヤス

木材 200 × 80 × 250cm 100kg

出品点数一覧表

	工芸	書	写真	1期展計	平面	立体	2期展計	合計
人数	143人 (81)	216人 (134)	214人 (64)	573人 (279)	281人 (88)	61人 (22)	342人 (110)	915人 (389)
点数	171点 (85)	216点 (134)	747点 (114)	1,134点 (333)	382点 (88)	62点 (22)	444点 (110)	1,578点 (443)

※（ ）内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画	第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品Ⅰ』洋画	第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第3回	42年度	垣内 治雄『坐る』彫刻	第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回	43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹鬚松影』書
第5回	44年度	山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵩『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真	第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE (BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画	第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回	2年度	山本 靖久『時の化石―豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遥かなる亜熱帯』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-77』彫刻			
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形			
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋Ⅰ,Ⅱ』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書			

第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書	第39回	15年度	井上 達也『植勢Ⅱ』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても……』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関 (第五福竜丸エンジン)』写真
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 晁雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描 (2枚組)』写真
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝 北樓』書 商 家訓『路傍の華 (3枚組)』写真
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域—群像Ⅰ』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民 (ネパール)』写真	第43回	19年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真	第44回	20年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海—つきうみ—』工芸 茂住 菁邨『称薦』書 中山洋之助『将棋三昧 (3枚組)』写真
第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『MI! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第45回	21年度	高橋 善一『HornetⅡ』平面立体 丸山 愛『striplay』工芸 松永 光鳳『三十六歌仙』書 永山 悦朗『記憶・パキスタン地震 (3枚組)』
第35回	11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斉藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稲葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真	第46回	22年度	菅原 有生『くさはらⅠ』平面立体 池田 節子『藍遊び』工芸 二瓶 祥舟『夜行』書 漆原 利大『追憶 (3枚組)』写真
第36回	12年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園 (ガラパゴス)』写真			
第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私1.2.3. (NUDE)』写真			
第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 栃木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『for away—いつか置いてきたもの—I-V』写真			

第 46 回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成 22 年 9 月 8 日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 原 範行
副委員長 福江 裕幸

委員

平面立体

内田あぐり 大矢十四彦 北澤 憲昭 林 敬二
水沢 勉 本江 邦夫

工芸

佐野登志子 富田 康子

書

石川 芳雲 川口 流坡

写真

山田 信次 和田 久士

内田 賢治 三角 秀行

審査員

平面立体

内田あぐり 是枝 開 袴田京太郎 原口 典之
林 敬二 本江 邦夫 山本 直彰

工芸

安藤 泉 岡村 康子 佐野登志子 関島 寿子
高橋 禎彦 富田 康子 安原 喜孝

書

笠嶋 忠幸 川口 流坡 棧敷 東石 日守菜穂子
水川 舟芳 茂住 菁邨 柳 清雪

写真

上野 修 内山 英明 江成 常夫 熊切 圭介
前田 利昭 山田 信次 和田 久士



有隣堂

画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店(4F)…………… TEL.(045)261-1231

■厚木店(4F)…………… TEL.(046)223-4111

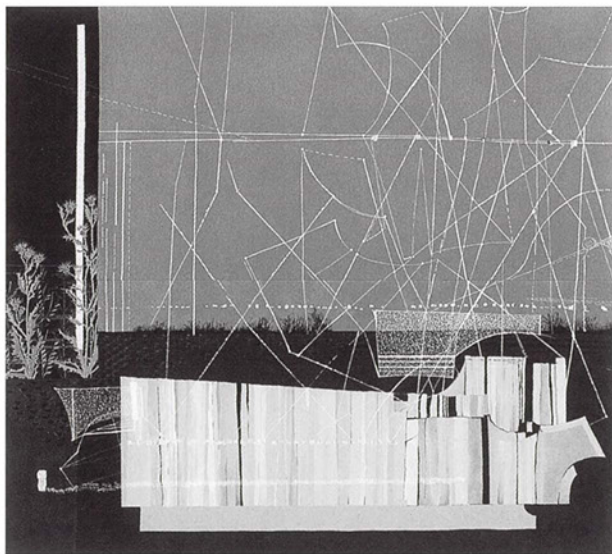
■藤沢店(フジサワ名店ビル4F)…………… TEL.(0466)26-1411

※藤沢店は書道用品のみ取り扱いっております。

布の未来を創る

石原真理

第41回日展 入選 『みのがしていた・きせき』



小貫那子 卒業作品

平成21年度 II部 プリンティングデザイン科



資料・願書無料送呈

学校(授業)見学 平日随時受付

学校説明会等
6～3月 各月1回実施

◎入学願書受付

社会人入学 9月1日～3月31日
学校推薦入学 10月1日～1月31日
自己推薦入学 11月1日～3月31日
一般入学 11月1日～3月31日

◆ 学科構成 ◆

デザイン総合科 (昼2年)

●テキスタイルデザインコース

●工芸染織コース

友禅染色専攻

伝統織物専攻

●デジタルデザインコース

テキスタイルデザイン科 (夜2年)



大塚テキスタイルデザイン専門学校

(姉妹校)専門学校大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 FAX 03(3226)9745

URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp

ケータイでも資料・願書請求、学校説明会申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k>

eco noge は、野毛印刷が推進する
環境保護をテーマとした
活動および事業展開です。



たいせつなものを もっとたいせつに。

たとえば、情報に命を吹き込むということ、
たとえば、個人情報をついに扱うということ、
たとえば、環境にやさしい印刷をするということ。
私たちに求められるたいせつなこと、たいせつなものを
もっともつとたいせつに。
印刷を中心に、さまざまな時代のニーズに
お応えする野毛印刷は、
ペーパーメディアからマルチメディアへ
情報の新しい価値を創造してまいります。

あなたの本づくりをサポートします。 momonoge.com モモノゲドットコム

一冊から
制作できます。

野毛印刷が展開するオンデマンド出版サービス「momonoge.com」では、企画から編集、印刷（オンデマンドプリント）、造本、流通に至るまで、プライベートな本づくりのすべてをお受けします。「日本自費出版ネットワーク」の会員である当社ならではの個人出版サービスです。小説、エッセイ集、詩集、画集、絵本、写真集、歌集、自分史、遺稿集…など、目的に応じてお受けいたします。なんなりとお気軽にご相談ください。



水を使わず、水を汚さない
環境にやさしい「水なし印刷」をはじめ
環境配慮印刷を展開しています。



個人情報の保護へ、
プライバシーマーク認証の
印刷会社をお選びください。

プライバシーマーク 使用認定
ISO 14001 9001 認証取得

野毛印刷

営業企画本部／横浜市内南区新川町 1-2 〒232-0027

☎(045) 252-2511
<http://www.noge.co.jp>

チャレンジ
たいせつなものを もっとたいせつに。 **25**

The 46th Kanagawa Art Exhibition 2010

第46回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業制作第一課内

〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1

TEL. 045-662-5901(代)

写真撮影：(株)菊屋写真工房

印刷：(株)野毛印刷社

発行：2010年9月8日



VOC
FREE T&R

神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県